科目名	プロ養成講座Ⅴ				担当講師
（英名）	Career Education Ⅴ				永井　武
学科･コース	バイオテクノロジー科3年制				
開講区分	前期			授業形態	演習
学年	3学年	単位 （総時間）	2単位 （30時間）	選択･必修	必修
授業の目的	卒業研究と連動して、業界で仕事ができる人材としての行動、考え方を学ぶ。 業界で求められる力を実際に使用し、社会人になるための準備をしていく。				
教育内容	専門職業人として求められる行動を実際に卒業研究や就職活動の現場で活かせるように、 企業研究活動や企業説明会、卒研に関わる活動の確認を行う。 業界で求められる専門知識、技能の習得を目指す。（知的財産管理技能検定3級・品質管理検定4級）				

講義内容(シラバス)

回数	項目	授業内容
1	オリエンテーション	科目概要が分かる。 卒年次における目標を決める、目標達成のために必要な行動を達成から逆算して考える。
2	就職対策（1） 企業研究の方法	企業研究を進めるうえで必要な「自らの就職活動の軸」を認識する。 自らが希望している条件の幅を理解する。
3	就職対策（2） 企業研究（個人調査）	就職対策（1）で認識した自らの就職活動の軸を元に、選考参加を希望する企業を複数探す。 実際に求人票を比較し、条件の幅を広げていくことで自らに見合う企業を見つけられるようにする。
4	就職対策（3） 企業研究（個人調査）	
5	就職対策（4） 企業研究（グループ発表）	自らが希望する企業を他者と比較し、他社の価値観を認識する。 今までの自分にはない新たな価値観の知見を得て自身の企業研究に活かす。
6	就職対策（5） 企業研究（グループ発表）	
7	就職対策（6） 企業研究（クラス発表）	各コースの発表を経て、自身の企業研究に生かす。
8	学内企業説明会（1）	各コースの就職先となる企業の社員（本校の卒業生を含む）を各回で招聘し、学内企業説明会を行う。 会社概要、事業内容、募集要項等を伺う機会とし、希望者は採用選考に進む。 企業の採用活動に実際に参加していると想定して聞く姿勢や態度をもって臨む。
9	学内企業説明会（2）	
10	学内企業説明会（3）	
11	学内企業説明会（4）	
12	学内企業説明会（5）	
13	学内企業説明会（6）	
14	学内企業説明会（7）	
15	前期振り返り	卒年次の目標の1/2時点での評価を行う。 目標の修正や変更を行い、年度末までに達成できるようにペース配分を再認識する。

準備学習 （予習・復習）	企業研究は講義以外の時間でも調べ学習を行い、様々な企業を見て視野を広げる。 学内企業説明会は事前に企業への質問を複数考えておく。
到達目標	企業研究で様々な企業を見ることで希望する職種の視野を広げる。 学内企業説明会で来校する社会人を相手に、今まで学んできた礼節を実践する。 講義中の対策活動を活かし、実際に自らが希望する企業の内定を得られる。
評価方法 評価基準	課題の提出（企業研究発表） 学内企業説明会中の関心・意欲・態度
使用教科書 教材 参考書	履歴書、求人票、就職活動報告書、各社の学内企業説明会資料
教員紹介等	獣医師。日本食品分析センターにて各種分析業務、動物実験に従事した。本校職員
その他	

科目名	プロ養成講座Ⅵ				担当講師
（英名）	Career Education Ⅵ				永井　武
学科・コース	バイオテクノロジー科3年制				
開講区分	後期			授業形態	演習
学年	3学年	単位 （総時間）	2単位 （30時間）	選択・必修	必修
授業の目的	卒業研究と連動して、業界で仕事ができる人材としての行動、考え方を学ぶ。 業界で求められる力を実際に使用し、社会人になるための準備をしていく。 就労知識を学習し、社会人に起こるイベントやトラブルに対応できるようにする。				
教育内容	社会人として会社等に所属する際に必要な就労知識を身に着け、実際に労働を始めた際に知識を活用できるようにする。 どの業種でも必要になるOfficeソフトの発展を学び、活かせるようにする。 卒業に向け、東京バイオテクノロジー専門学校の学生として最後の学習を進める。				

講義内容(シラバス)

回数	項目	授業内容
1	オリエンテーション	社会人になる直前の自分を見つめ、年度末までに行うべきことを意識する。 後期の学習内容を理解する。
2	社会人スキル勉強会（1）	卒年次時点で社会人にとって有用なスキルだと学生が意識している内容を集計し、 票数の多い内容・重要な内容を学習する。 内容はビジネスマナー・Microsoft Offise（Word、Excel、PowerPoint）の4種から選ばれる。 事前に課題作成のうえで講義を開始し、紹介された各スキルと課題を比較して 現在の技量の差を確認する。
3	社会人スキル勉強会（2）	
4	社会人スキル勉強会（3）	
5	社会人スキル勉強会（4）	
6	社会人スキル勉強会（5）	
7	就職対策 知識・技術・心構え	社会人に必要な知識・技術・心構えを意識し、他社と共有して将来に役立てる。
8	就職対策 知識・技術・心構え	
9	就労知識（1） 社会保障	社会人になってから起こるイベントやトラブルに対応できる就労知識を学習する。 知識があることで有意義な社会人生活が送れるという事例を受け、覚える必要性があると意識する。
10	就労知識（2） 社会保障	
11	就労知識（3） 仕事と会社	
12	就労知識（4） 仕事と会社	
13	卒業に向けて（1）	4月時点で立てた目標に対しての評価を行う。 専門学校終盤の授業として、改めて学生生活から社会人生活に切り替わる意識を持つ。
14	卒業に向けて（2）	
15	卒業に向けて（3） 後期振り返り	

準備学習 （予習・復習）	社会人スキル勉強会は、事前に提示された課題を行ったうえで授業に臨み、授業で提示されたスキルと比較する。
到達目標	内定、卒業研究の達成を通して社会人になっていく意識を高める。 社会人に必要なスキルを先に学習することで就職してからのアドバンテージを得る。
評価方法 評価基準	課題の提出（社会人スキル勉強会）
使用教科書 教材 参考書	Microsoft Office（Word,Excel,PowerPoint）
教員紹介等	獣医師。日本食品分析センターにて各種分析業務、動物実験に従事した。本校職員
その他	

科目名	卒研プレゼンテーション			担当講師	
（英名）	PC Excel and Power Pont for Graduation Research			高橋　信浩	
学科	バイオテクノロジー科4年制				
開講区分	後期			授業形態	演習
学年	4学年	単位 （総時間）	2単位 （30時間）	選択・必修	必修
授業の目的	卒業研究の卒業論文・PowerPointプレゼンテーションに関連して 長文作成支援機能などのWord操作、PowerPoint作成操作等を学ぶ。 また、卒業後に必要なIT関係の知識を学ぶ。				
教育内容	全般：ビジネスで多用されているWindows／Microsoft Office（Word・Excel・PowerPoint）の基本操作を習得する 今期は、卒業研究に必要なWordの基本操作およびPowerPointの基本操作を中心に、関連した事柄について学ぶ				

講義内容(シラバス)

回数	項目	授業内容
1	【Worrd】 1,2年次習得機能の復習	1,2年次に学んだ機能の復習 （表組み、タブとリーダー、セクションなど）
2	卒業研究（論文・発表資料） ビジネス文書関連作成①	【Word】 論文など長文作成に必要な、アウトライン機能・スタイルなどを理解し、習得する。 【PowerPoint】 プレゼンテーションの基本となる、箇条書きスライドの要点を理解する。
3	卒業研究（論文・発表資料） ビジネス文書関連作成②	【Word】 論文など長文作成に必要な基本操作を習得する （新規スタイル作成、文章の校正、変更履歴など）
4	卒業研究（論文・発表資料） ビジネス文書関連作成③	【Word】 論文など長文作成に必要な基本操作を習得する （セクション機能、ヘッダー・フッター、ページ番号設定・管理など）
5	卒業研究（論文・発表資料） ビジネス文書関連作成④	【Word】 論文など長文作成に必要な、 アウトライン・項番設定・管理などを理解し、習得する。 【Word】・【PowerPoint】 画像の種類・取り扱い
6	プレゼンテーション①	発表時に必要な基本操作・スキルについて学ぶ （効果的な発表の話し方、ノンバーバル・コミュニケーションなど）
7	プレゼンテーション②	発表時に必要な基本操作・スキルについて学ぶ （質疑応答に関連して、効果的な発問と応答など）
8	プレゼンテーション③	発表時に必要な基本操作・スキルについて学ぶ （まとめ）
9	ITリテラシー①	IT関連の基礎知識を学ぶ （サーバー／クライアント、ネットワーク、プロトコル、ウィルスなど）
10	ITリテラシー②	IT関連の基礎知識を学ぶ （セキュリティ、ユーザー認証、パスワードなど）
11	プレゼンテーション④	【PowerPoint】 発表時に必要な設定について学ぶ （スライドショーの設定、発表時のPC操作、スライドショー実行時の操作方法など）
12	プレゼンテーション⑤	【PowerPoint】 発表時に必要な設定について学ぶ （マルチモニター環境の構築、発表者ツールの活用など）
13	卒業研究学内発表会準備作業	学内発表資料の最終準備
14	卒業研究学外発表準備作業	学外発表のポスター作製手順の説明および作成
15	期末試験	期末試験
準備学習 （予習・復習）	習得した操作を、実験レポート・発表用資料作成・その他に活用する	
到達目標	卒業研究、研究発表会（学内・学外）に必要な論文、発表資料、発表に対応できる	
評価方法 評価基準	小テストと定期期末試験（実技）で評価する 小テスト：定期期末試験＝20：80	
使用教科書 教材 参考書	学生のためのOfficeスキル活用＆情報モラル	
教員紹介等	株式会社ソフトクリエイトにてシステム開発を行い、また、現在は本校のみならず各所で、フリーとしてもシステム開発やコンピューター教育に従事している。	
その他		

科目名	卒研英語Ⅰ				担当講師
（英名）	English of Graduation Research Ⅰ				篠原　直貴
学科･コース	バイオテクノロジー科４年制				
開講区分	前期			授業形態	講義
学年	4学年	単位 （総時間）	2単位 （30時間）	選択･必修	必修
授業の目的	卒研に関連する情報を英語の科学論文から集めそれを卒業研究に反映させることを学ぶ過程を通して、科学研究の進め方を理解することを目的とします。				
教育内容	科学論文の検索の仕方、読み進め方、理解の仕方をゼミナール形式で学びます。また、生物に関する英語での読解力向上のため、生物に関係する英語の文章の輪読をします。				

講義内容(シラバス)

回数	項目	授業内容
1、2	卒研英語ゼミナール1	科学論文の検索の仕方と、テーマの選択の仕方、読み進め方を解説します。
3、4	卒研英語ゼミナール2	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。生物に関係する英語の文章の輪読をします。
5、6	卒研英語ゼミナール3	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。生物に関係する英語の文章の輪読をします。
7、8	卒研英語ゼミナール4	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。生物に関係する英語の文章の輪読をします。
9、10	卒研英語ゼミナール5	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。生物に関係する英語の文章の輪読をします。
11、12	卒研英語ゼミナール6	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。生物に関係する英語の文章の輪読をします。
13、14	卒研英語ゼミナール7	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。生物に関係する英語の文章の輪読をします。
15	卒研英語ゼミナール8	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。生物に関係する英語の文章の輪読をします。

準備学習 （予習･復習）	生物に関連する英語を普段から読んでおくことはよい習慣です。わかるまで読む粘り強さをあわせて身につけましょう。
到達目標	科学論文を読み研究内容も含めて理解を進められるようになることを目指します。また、わからない状況に至ったときに、自分で解決できるような調べ方を体得します。
評価方法 評価基準	ゼミナールの発表および輪読を通して評価します。
使用教科書 教材 参考書	共通の教科書はありません。各自で調べた論文をパワーポイントないしハンドアウトして発表します。
教員紹介等	理学博士　東北大学大学院生命科学科などにおいて研究支援者等として実務、研究活動に従事した。
その他	

科目名	卒研英語Ⅰ				担当講師
（英名）	English of Graduation Research Ⅱ				篠原　直貴
学科･コース	バイオテクノロジー科４年制				
開講区分	後期			授業形態	講義
学年	4学年	単位 （総時間）	2単位 （30時間）	選択･必修	必修
授業の目的	卒研に関連する情報を英語の科学論文から集めそれを卒業研究に反映させることを学ぶ過程を通して、科学研究の進め方を理解することを目的とします。				
教育内容	科学論文の検索の仕方、読み進め方、理解の仕方をゼミナール形式で学びます。また、生物に関する英語での読解力向上のため、生物に関係する英語の文章の輪読をします。				

講義内容(シラバス)

回数	項目	授業内容
1、2	卒研英語ゼミナール1	科学論文の検索の仕方と、テーマの選択の仕方、読み進め方を解説します。
3、4	卒研英語ゼミナール2	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。生物に関係する英語の文章の輪読をします。
5、6	卒研英語ゼミナール3	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。生物に関係する英語の文章の輪読をします。
7、8	卒研英語ゼミナール4	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。生物に関係する英語の文章の輪読をします。
9、10	卒研英語ゼミナール5	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。生物に関係する英語の文章の輪読をします。
11、12	卒研英語ゼミナール6	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。生物に関係する英語の文章の輪読をします。
13、14	卒研英語ゼミナール7	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。生物に関係する英語の文章の輪読をします。
15	卒研英語ゼミナール8	ゼミナール形式で割り当てを決めて科学論文の紹介を行います。生物に関係する英語の文章の輪読をします。

準備学習 （予習･復習）	生物に関連する英語を普段から読んでおくことはよい習慣です。わかるまで読む粘り強さをあわせて身につけましょう。
到達目標	科学論文を読み研究内容も含めて理解を進められるようになることを目指します。また、わからない状況に至ったときに、自分で解決できるような調べ方を体得します。
評価方法 評価基準	ゼミナールの発表および輪読を通して評価します。
使用教科書 教材 参考書	共通の教科書はありません。各自で調べた論文をパワーポイントないしハンドアウトして発表します。
教員紹介等	理学博士　東北大学大学院生命科学科などにおいて研究支援者等として実務、研究活動に従事した。
その他	

科目名	卒業研究Ⅰ				担当講師
（英名）	Graduation Research Ⅰ				永井 武 白須 由治ほか （インターンシップ教育含む）
学科	バイオテクノロジー科4年制				
開講区分	前期			授業形態	実習
学年	4学年	単位 （総時間）	12単位 （360時間）	選択・必修	必修
授業の目的	産業界に必要とされる自立した専門職業人となるための問題発見・調査・問題解決能力を身に付け、マナーとスキルを習得し、実践する場として行う。				
教育内容	1. 現場で求められるコミュニケーションの実践 2. PDCAサイクルの実践 3. 時間管理の徹底 4. 報告、連絡、相談を行い、チームで成果をあげる意識を持つことと行動の実践				

講義内容(シラバス)

回数	項目	授業内容
1	卒業研究の概要	卒魚研究の目的確認 卒業研究における運営のルール伝達 担当講師紹介
2	卒業研究グループつくり	卒業研究テーマの紹介（産学協同先　課題内容　学校指導講師） 学生希望調査　グリープつくり
3	研究計画①	研究計画作成 予算計画 学内プレゼン準備⇒　学校担当者へのプレゼンテーションによる研究開始の承認を受ける
4	研究計画②	産学協同先への研究計画プレゼンテーション
5	研究活動①	研究計画に沿って、物品購入 研究活動を開始する。
6	研究活動②	・計画に沿った研究活動を実施 ・週間計画書、週間報告書による研究活動の検討 ・産学協同研究先への結果報告（プレゼンーション含む）
7	研究活動③	・計画に沿った研究活動を実施 ・週間計画書、週間報告書による研究活動の検討 ・産学協同研究先への結果報告（プレゼンーション含む）
8	研究活動④	・計画に沿った研究活動を実施 ・週間計画書、週間報告書による研究活動の検討 ・産学協同研究先への結果報告（プレゼンーション含む）
9	研究活動⑤	・計画に沿った研究活動を実施 ・週間計画書、週間報告書による研究活動の検討 ・産学協同研究先への結果報告（プレゼンーション含む）
10	研究活動⑥	・計画に沿った研究活動を実施 ・週間計画書、週間報告書による研究活動の検討 ・産学協同研究先への結果報告（プレゼンーション含む）
11	研究活動⑦	・計画に沿った研究活動を実施 ・週間計画書、週間報告書による研究活動の検討 ・産学協同研究先への結果報告（プレゼンーション含む）
12	研究活動⑧	・計画に沿った研究活動を実施 ・週間計画書、週間報告書による研究活動の検討 ・産学協同研究先への結果報告（プレゼンーション含む）
13	研究活動⑨	中間発表に向けた研究成果のまとめ 要旨作成
14	中間発表	卒業研究前半のまとめのプレゼンテーション 研究の進め方の妥当性、課題抽出、他者が理解できるプレゼンテーションの実施
15	後期　実験計画作成	中間報告を踏まえて、後期研究活動方針の決定

準備学習 （予習・復習）	研究計画書　研究報告書による週単位の行動計画、実践、振り仮りを繰り返して、成果を出せるように準備をする。
到達目標	研究計画作成、研究活動、中間発表でのまとめ、研究方針の調整ができる。
評価方法 評価基準	評価表1（50点）＋報告書・計画書（20点）＋中間発表（30点）（計100点） インターンシップ生：セルフマネジメント（30点）＋チームマネジメント（30点）＋実験技術・報告など（40点） 履修科目の成績評価をGPIに置きかえ、1科目あたりの平均値により、学生の成績を数値化する。 GPA算出計算は、成績評価　A:4.0、B：3.0、C：2.0、D：1.0、F0.0とし、 GAP＝該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGPの合計／当該学期評価をうけた各授業科目の単位数の合計
使用教科書 教材 参考書	卒業研究マニュアル
教員紹介等	永井武　　）獣医師。日本食品分析センターにて各種分析業務、動物実験に従事した。本校職員 白須由治　）農学博士。キリンビール株式会社医薬品研究開発所にて、医薬品開発のための遺伝子実験、動物実験などの実験に従事。元キリンビール機能食品カンパニー企画開発部長。
その他	

科目名	卒業研究Ⅱ				担当講師	
（英名）	Graduation Research Ⅱ				永井 武 白須 由治ほか （インターンシップ教育含む）	
学科	バイオテクノロジー科4年制					
開講区分	前期			授業形態	実習	
学年	4学年	単位 （総時間）	12単位 （360時間）	選択・必修	必修	
授業の目的	産業界に必要とされる自立した専門職業人となるための問題発見・調査・問題解決能力を身に付け、マナーとスキルを習得し、実践する場として行う。					
教育内容	1. 現場で求められるコミュニケーションの実践 2. PDCAサイクルの実践 3. 時間管理の徹底 4. 報告、連絡、相談を行い、チームで成果をあげる意識を持つことと行動の実践					

講義内容(シラバス)

回数	項目	授業内容
1	研究活動①	・研究計画に基づき、研究活動を進める ・週間計画書、週間報告書による研究活動の進捗、評価、見直しをしながら研究を進める ・産学協同先の求めに応じて、成果をプレゼンテーションし、評価を受けるとともに必要に応じて、研究の方向性を再検討する。
2	研究活動②	・研究計画に基づき、研究活動を進める ・週間計画書、週間報告書による研究活動の進捗、評価、見直しをしながら研究を進める ・産学協同先の求めに応じて、成果をプレゼンテーションし、評価を受けるとともに必要に応じて、研究の方向性を再検討する。
3	研究活動③	・研究計画に基づき、研究活動を進める ・週間計画書、週間報告書による研究活動の進捗、評価、見直しをしながら研究を進める ・産学協同先の求めに応じて、成果をプレゼンテーションし、評価を受けるとともに必要に応じて、研究の方向性を再検討する。
4	研究活動④	・研究計画に基づき、研究活動を進める ・週間計画書、週間報告書による研究活動の進捗、評価、見直しをしながら研究を進める ・産学協同先の求めに応じて、成果をプレゼンテーションし、評価を受けるとともに必要に応じて、研究の方向性を再検討する。
5	研究活動⑤	・研究計画に基づき、研究活動を進める ・週間計画書、週間報告書による研究活動の進捗、評価、見直しをしながら研究を進める ・産学協同先の求めに応じて、成果をプレゼンテーションし、評価を受けるとともに必要に応じて、研究の方向性を再検討する。
6	研究活動⑥	・研究計画に基づき、研究活動を進める ・週間計画書、週間報告書による研究活動の進捗、評価、見直しをしながら研究を進める ・産学協同先の求めに応じて、成果をプレゼンテーションし、評価を受けるとともに必要に応じて、研究の方向性を再検討する。
7	研究活動⑦	・研究計画に基づき、研究活動を進める ・週間計画書、週間報告書による研究活動の進捗、評価、見直しをしながら研究を進める ・産学協同先の求めに応じて、成果をプレゼンテーションし、評価を受けるとともに必要に応じて、研究の方向性を再検討する。
8	研究活動⑧	・研究計画に基づき、研究活動を進める ・週間計画書、週間報告書による研究活動の進捗、評価、見直しをしながら研究を進める ・産学協同先の求めに応じて、成果をプレゼンテーションし、評価を受けるとともに必要に応じて、研究の方向性を再検討する。
9	研究活動⑨	・研究計画に基づき、研究活動を進める ・週間計画書、週間報告書による研究活動の進捗、評価、見直しをしながら研究を進める ・産学協同先の求めに応じて、成果をプレゼンテーションし、評価を受けるとともに必要に応じて、研究の方向性を再検討する。
10	研究活動⑩	・研究成果を卒業論文にまとめる ・卒業研究の成果を他者に伝えるためのツールを作る。 ・チームで研究成果を共有し、チームの誰もが他者に成果を伝えることができるようにする
11	研究活動⑪	・研究成果を卒業論文にまとめる ・卒業研究の成果を他者に伝えるためのツールを作る。 ・チームで研究成果を共有し、チームの誰もが他者に成果を伝えることができるようにする
12	研究活動⑫	・研究成果を卒業論文にまとめる ・卒業研究の成果を他者に伝えるためのツールを作る。 ・チームで研究成果を共有し、チームの誰もが他者に成果を伝えることができるようにする
13	研究活動②	・研究成果を卒業論文にまとめる ・卒業研究の成果を他者に伝えるためのツールを作る。 ・チームで研究成果を共有し、チームの誰もが他者に成果を伝えることができるようにする
14	学内卒業研究発表会	・下級生、保護者に対して研究成果を口頭発表する。 ・利き手がわかるプレゼンテーション（多数に伝える）を実践する。
15	学外卒業研究発表会	・企業、研究所、卒業生など東京バイオが関わる業界人にプレゼンテーションする。相手に合わせてプレゼンテーション、その場での問いに適切に回答することを実践する。ポスターセッションによるプレゼンテーションを行う。

準備学習 （予習・復習）	研究計画書 研究報告書による週単位の行動計画、実践、振り仮りを繰り返して、成果を出せるように準備をする。
到達目標	研究成果を論文（書く）、口頭発表（多数へのプレゼンテーション）、ポスターセッション（1対1のプレゼンテーション）ができる。 職業人として求められる挨拶、報告、連絡、相談ができる。 職業人としての立ち居振る舞いを意識できる。
評価方法 評価基準	評価表1（50点）＋報告書・計画書（10点）＋卒業研究学内発表会（20点）＋卒業論文（20点）（計 100点） インターンシップ生：セルフマネジメント（30点）＋チームマネジメント（30点）＋実験技術・報告など（40点） ＋卒業論文の提出+学内外卒業研究発表会 履修科目の成績評価をGPIに置きかえ、1科目あたりの平均値により、学生の成績を数値化する。 GPA算出計算は、成績評価 A:4.0、B：3.0、C：2.0、D：1.0、F0.0とし、 GAP＝該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGPIの合計／当該学期評価をうけた各授業科目の単位数の合計
使用教科書 教材 参考書	卒業研究マニュアル
教員紹介等	永井武　　）獣医師。日本食品分析センターにて各種分析業務、動物実験に従事した。本校職員 白須由治　）農学博士。キリンビール株式会社医薬品研究開発所にて、医薬品開発のための遺伝子実験、動物実験などの実験に従事。元キリンビール機能食品カンパニー企画開発部長。
その他	